



ニッペ 弾性ファインウレタンU100
弾性ターペン可溶2液形ポリウレタン樹脂塗料

□ 規格表示

JIS K5658 建築用耐候性上塗り塗料 3級
JIS A6909 建築用仕上塗材 可とう形改修塗材RE、防水形複層塗材E/RE 上塗材 耐候形2種 相当*
JIS K5658はつや有りのみが対象となります。（光沢値の規格があるため）

□ 特長

- * 該当規格の性能を満たしています。（社内試験）
- ・乾燥が速く、作業性にすぐれています。
- ・弾性仕上げに適した上塗り塗料です。
- ・耐候性、光沢保持率が良く、耐水性、耐アルカリ性、耐薬品性にもすぐれています。
- ・塗料用シンナーで希釈できるので、臭気がマイルドです。

□ 塗料性状

色		塗料液（主剤）	硬化剤	
色		各色	無色	
密度(g/cm ³)(23℃)		1.11（混合液）		
光沢		つや有り、7分つや有り、5分つや有り、3分つや有り		
引火点		38	42	
発火点		288（参考値）	288（参考値）	
消防法表示	化学名	合成樹脂エナメル塗料	合成樹脂クリヤー塗料	
	危険物区分	第二石油類	第二石油類	
	危険物等級	III（火気厳禁）	III（火気厳禁）	
有機溶剤区分		第3種	第3種	
毒劇物表示		-	-	
有害物表示		-	イソシアネート	
ホルムアルデヒド放散等級	登録(認証)番号	0306404		
国連/指針番号	区分表示	F		
	問合せ先	http://www.nsk-web.org/		
		1263/128	1866/128	
環境性能	クロルリネン	配合せず	配合せず	0.1%未満
	キシレン	0.6%	配合せず	0.3%
	スチレン(モノマー)	0.1%未満	配合せず	配合せず
	フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	配合せず	配合せず	配合せず
	フェノール	配合せず	配合せず	配合せず
TVOC		41.2%		

・塗料性状に記載の数値は、全て代表的な色相、つやを想定しています。

□ 塗装基準

- 混合：2液形のため、「塗料液(主剤)：硬化剤＝9：1(重量比)」に混合し、十分にかくはんしてください。
荷姿：15kgセット(塗料液(主剤)：硬化剤＝13.5kg：1.5kg)、4kgセット(塗料液(主剤)：硬化剤＝3.6kg：0.4kg)
ポットライフ：10時間(23℃)
希釈剤：塗料用シンナーA

塗装方法	はけ、ウールローラー塗り	エアレススプレー塗り
希釈率/1コート	5～10%	5～10%
使用量/1コート	0.12～0.17kg/m ² /回	0.12～0.17kg/m ² /回
希釈率/2コート	10～15%	5～10%
使用量/2コート	0.12～0.17kg/m ² /回	0.12～0.17kg/m ² /回

- ・上記の各数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。
- ・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。

乾燥時間：

	5～10	23	30
指触乾燥	40分	20分	10分
塗り重ね乾燥	8時間以上	2時間以上	1時間以上

・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

□ 特記事項

- ・「3～7分つや有り仕上げ」の場合、上塗りの1回目に「つや有り」、2回目に「3～7分つや有り」をご使用ください。
- ・蓄熱されやすい建材（軽量モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など）を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が膨れていることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じることがありますので、最寄の営業所などにご相談ください。
- ・塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- ・希釈用シンナーは塗料用シンナーAをご使用ください。冬季など乾燥が遅いときは、塗料用シンナーS Aもご使用いただけます。
- ・鉄部には直接塗装できません。あらかじめ、さび止め塗料を塗っておく必要があります。
- ・弾性塗料は塗膜がのびるのでクラック追従性を有しますが、地震・台風・軟弱地盤など予想を越えた震動、従来の壁と違った特殊構造（特殊力）などにより、本来のクラック追従性を発揮できない場合があります。

□ 注 意 事 項

- ・つや調整品では、はけ、ローラーでの塗装はむらが出やすくなりますので、スプレー塗装をおすすめいたします。
- ・つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通して塗装してください。
- ・過剰希釈をすると本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量をまもってください。
- ・つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。
- ・つや調整品は、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かはんしながらご使用ください。
- ・防藻・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
- ・被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が発現されない場合があります。
- ・溶剤系塗料のため、室内での塗装は必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者へのご配慮をお願い致します。
- ・所定のシンナー以外を使用したり、薄めすぎるとつや引けやダレ、かぶり不良などをきたす原因になりますので、必ず所定のシンナーおよび希釈率をまもってください。
- ・異なる色相を塗り重ねる場合（例：1回目の上塗りを塗装してから、別な色相でラインや帯などを塗装する場合など）2回目の上塗りが1回目の上塗りを侵してラインや帯などが変色（ブリードにより）する場合がありますのでご注意ください。
- ・結露の著しい個所では、J I S K 5 6 2 9（鉛酸カルシウムさび止め）の上には、塗装を避けてください。
- ・硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する場合があります。
- ・水、アルコール系溶剤の混入は絶対に避けてください。
- ・硬化剤は湿気で硬化しますので密栓して貯蔵してください。
- ・塗料を扱う場合は、皮膚に付着しないようにご注意ください。また、蒸気やミストなども吸い込まないように十分にご注意ください。
- ・塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合（高湿度、結露、降雨など）、塗膜表面が白化するおそれがあります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装を避けてください。
- ・旧塗膜が塗料用シンナーで容易に溶解するつや有り塗料の場合は、縮みや膨れが発生するおそれがあるため、塗装は避けてください。弱溶剤1液形塗料や水性塗料での塗り替えをお奨めします。
- ・旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
- ・内部塗り替えにおいて旧塗膜がSOP、FEなどの油性系の場合、研磨ずりを行ってください。下地処理が不十分な場合は、塗膜はく離の原因となります。
- ・既存塗膜のはく離個所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- ・改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を侵し溶剤膨れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご検討ください。
- ・風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ1液ファインパーフェクトシーラー、ニッペファインパーフェクトシーラー、ニッペファイン浸透シーラーをご使用ください。なお、使用量は濡れ感が出るまでを目安とし、素地への吸い込み箇所がある場合はその部分を増し塗りしてください。
- ・シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
- ・やにが著しく付着している場合は、ウエスなどでやにを水拭きして除去し被塗装面を十分に乾燥させてから塗装してください。希釈を少なくし、1回目の塗装を十分乾燥（目安23、6時間）させてから2回目の塗装をすることでやに止め性が向上します。シミ、あく面は止まりにくい場合がありますので、ウエスなどで水拭きを行い、被塗装面を十分乾燥させてから塗装してください。
- ・素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下（ケット科学社製CH-2型で測定した場合）、または5%以下（ケット科学社製Hi500シリーズ：コンクリートレンジで測定した場合）の条件で塗装してください。
- ・表面のごみ、ほこり、エフロレッセンス、レイタンスなどは除去し、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。
- ・ALC面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材（ニッペ1材カチオンフィラー、ニッペ1材フィラー#200）などで処理してください（合成樹脂エマルジョンパテの使用は避けてください）。
- ・内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。
- ・材齢の若いコンクリートなどセメント成分が十分に硬化していない場合、エフロレッセンスが発生するおそれがありますので、溶剤系シーラーをご使用下さい。
- ・新設の押出成形セメント板、GRC板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ1液ファインパーフェクトシーラー、ニッペファイン浸透シーラーをお使いください。
- ・塗装直後から頻繁に人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、皮脂の影響により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。
- ・カウンター、陳列棚、ベンチ、床面などものが常時置かれるような場所には跡がつくおそれがありますので塗装しないでください。
- ・塗料液と硬化剤の混合割合は、必ずまもってください。混合割合が不適切な場合、塗膜性能が発現されなかったり、仕上がりや作業性が低下することがあります。
- ・屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- ・塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- ・飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- ・シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離などの不具合を起こすことがありますので、原則として行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑性移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
- ・笠木、天端など長時間水が滞留する個所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- ・薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- ・上塗りに冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に冴えた色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠ぺい出来ない場合がありますため、事前に試験施工塗り板等でご確認下さい。
- ・調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
- ・濃彩色や冴えた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような個所に使用する場合は、ファインシリコンフレッシュリヤーを上塗りに塗装してください。クリヤーのローラー及び刷毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や滲みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
- ・大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
- ・はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
- ・ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
- ・塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
- ・汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
- ・はけなどの塗装用具の洗いは、ラッカーシンナーを使用してください。
- ・クロスの上の塗装は避けてください。
- ・ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
- ・可塑性が多く含まれる塩ビクロス、塩ビゾル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革などへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。
- ・平滑仕上げや鏡面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸込みや巣穴によるピンホール、凹凸などを防止するため、パテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。
- ・塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用い

□ 注 意 事 項

- て缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
- ・開封後は一度に使い切ってください。 やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- ・塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- ・製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート（SDS）をご参照ください。